

一般社団法人 日本外傷歯学会
第 25 回 日本外傷歯学会総会・学術大会
－ 創立 25 周年記念大会 －

プログラム・抄録集

会 期：2025 年 7 月 19 日（土）・20 日（日）

会 場：北九州国際会議場

大 会 長：森本 泰宏（九州歯科大学歯科放射線学分野 教授）

準備委員長：小田 昌史（九州歯科大学歯科放射線学分野 准教授）

実行委員長：曾我富美雄（九州歯科大学歯科放射線学分野・曾我歯科医院 院長）

ご 挨 拶



一般社団法人日本外傷歯学会
第 25 回日本外傷歯学会総会・学術大会
(創立 25 周年記念大会)

理事長 木 村 光 孝
九州歯科大学 名誉教授

第 25 回日本外傷歯学会総会・学術大会は大会長森本 泰宏先生のもとで開催されます。

記念すべき創立 25 周年記念大会は北九州国際会議場で開催されます。森本大会長をはじめ関係各位に感謝致します。外傷歯学は乳歯列期をはじめとして成長期から老年期に至るまで、咬合・咀嚼の観点から教育、研究、臨床の立場から外傷歯学は口腔医学の立場、特に嚥下機能による無意識機能の脳幹への役割は大きく、脳中枢を守り、神経伝達物質の役割を期待しています。脳幹・体幹の長期臨床を必要としています。

私自身も国際外傷歯学会 (International Association of Dental Traumatology) の foundation follow (May 1st.2015) であることから学会も世界で活躍していただいています。

本学会も創立 25 周年を迎え、咬合性外傷・外傷性咬合の処置が口腔機能により、摂食嚥下の役割が大切です。そのために、歯の外傷はスポーツ、転倒、衝突など口腔機能低下による脳中枢を守ることにより、自律神経の働きが大切であります。

外傷歯は特に急性一過性刺激による炎症性細胞は、免疫応答による神経伝達物質を含んでいるため再生神経の能力を有しています。

ご 挨拶



一般社団法人日本外傷歯学会
第 25 回日本外傷歯学会総会・学術大会
(創立 25 周年記念大会)

大会長 森 本 泰 宏
九州歯科大学歯科放射線学分野 教授

第 25 回日本外傷歯学会総会・学術大会の開催にあたり会員ならびに関係の皆様にご挨拶申し上げます。第 25 回日本外傷歯学会総会及び学術大会は、2025 年 7 月 19 日から 20 日までの 2 日間、北九州国際会議場にて開催することになりました。今回は創立 25 周年記念大会として、盛大な記念式典を執り行う予定です。これ迄、木村光孝理事長をはじめ、多くの諸先生のご尽力で飛躍的に発展してまいりました日本外傷歯学会の現在の姿とその存在意義をしっかりと肌で感じて戴きたいと考えております。同時に今後、学会が向かうべき道筋を定めるべく、新たなページを加えるに相応しい学会にしたいと思っております。

外傷歯の治療は現在の歯科臨床で避けては通れない重要な役割を果たしています。そこで、外傷歯治療に関する歴史を過去から現在まで多角的な視点より振り返りたいと思います。そして今後の未来に向けて指針を示していきたいと思っております。今回の学術大会のテーマを「外傷歯治療の現在・過去・未来 - 日本外傷歯学会のこれまでと将来 -」と銘打ちました。創立 25 周年を迎えるにあたり、外傷歯を掘り下げて考える学会として歯科臨床の場におけるその重要性を再確認し、将来向かうべき道を模索するといった意味を込めております。そこで、特別講演を狩野岳史先生、比嘉 努先生、古森孝英先生の 3 名にお願いしました。どの先生も外傷歯の治療を第一線で行っておられる先生です。とても興味深いお話をお伺いできると思っております。基調講演は柳川 徹先生、教育講演は戸谷孝洋先生と日本外傷歯学会で活躍下さっている方々にお願いしました。更に、シンポジウムは「外傷歯の診断と治療」といった最も大切な内容をテーマとし、岡田康男先生、馬場篤子先生、金氏 毅先生にそれぞれのお立場よりご討議頂く予定です。一般講演では、外傷歯に関する検査、診断、治療及び予後等につままして幅広く募集する予定です。多くの先生にご発表戴き、活発な御討議や情報交換から新たな知見が生まれますことを期待しております。

新たな第一歩を踏み出す記念すべき大会を本教室に担当させて頂く機会を戴きました木村光孝理事長をはじめ役員の方、学会会員及び関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

目 次

■ 会場のご案内	6
■ ご案内とお願い	7
■ 日程表	8
■ 教育講演	11
■ 基調講演Ⅰ	13
■ シンポジウム	15
■ 特別講演Ⅰ	19
■ 一般口演	21
■ 基調講演Ⅱ	27
■ 特別講演Ⅱ	29
■ 特別講演Ⅲ	31
■ 認定医更新セミナー	32

会場のご案内

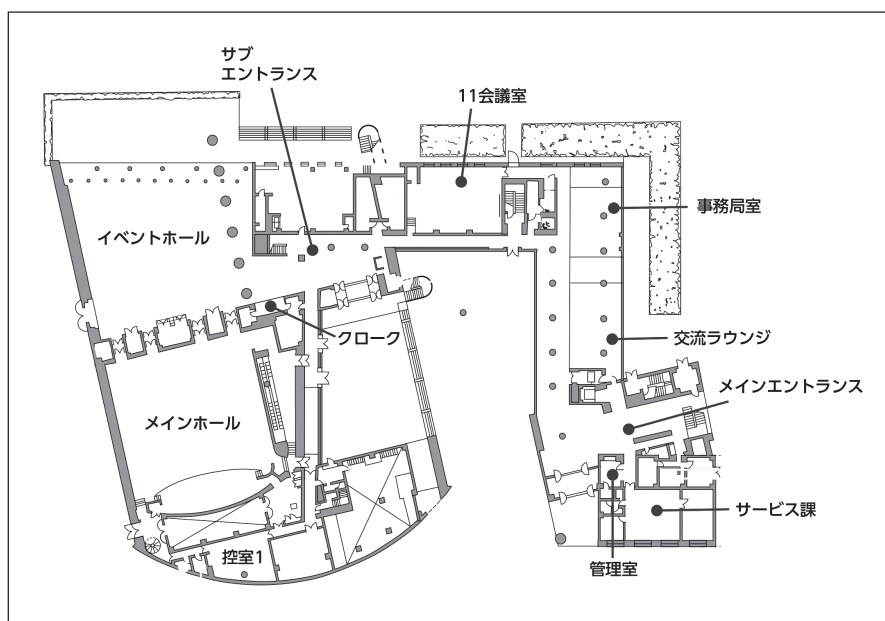
北九州国際会議場

〒 802-0001

福岡県北九州市小倉北区浅野 3-9-30

JR 小倉駅より徒歩 5 分

TEL 093-541-5931



ご案内とお願い

1. 受付について

- ・学会の受付時間は、7月19日(土)9:00より、7月20日(日)8:00より総合受付(サブエントランスホール)にて行います。
- ・当日、総合受付で会費をお支払いのうえ、参加証、領収証をお受け取り下さい。
- ・理事・評議員会につきましては、7月19日(土)9:30より北九州国際会議場11会議室にて受付を行います。

2. 参加費・懇親会費について

- ・参加費 13,000 円
- ・懇親会費 10,000 円
- ・発表者(共同発表者含む)は本学会員に限りますので、令和7年度の会費を6,000円納めてください。

3. 懇親会のご案内

日時：7月19日(土) 17:30～19:30

会場：JR九州ステーションホテル小倉 5階 飛翔の間

4. 認定医更新セミナー申し込みについて

認定医更新セミナー受講には、本学術大会参加登録とセミナー申し込みの両方が必要です。

セミナーのみの受講はできませんので、学術大会の参加登録とともにお申し込みください。

当日参加可能です。

認定医更新セミナーは日本外傷歯学会が主催します。

発表者の資格

発表者、共同演者ともに、日本外傷歯学会会員に限ります。

入会手続きに関して、日本外傷歯学会事務局にお問い合わせ下さい。

学会事務局

〒803-0862 北九州市小倉北区今町2-12-13

TEL: 093-562-6886 / FAX: 093-562-6887

メール: japan.assoc.dt@gmail.com

総会・学術大会に関しては、大会事務局にお問い合わせ下さい。

〒803-8580 福岡県北九州市小倉北区真鶴2-6-1

九州歯科大学歯科放射線学分野 担当 西村

TEL: 093-285-3094 / FAX: 093-285-3094

一般社団法人 日本外傷歯学会 総会・学術大会

－ 創立 25 周年記念大会 －

日 程 表

2025 年 7 月 19 日 < 1 日目 >

9 : 30 ～ 10 : 20 理事・評議委員会

10 : 30 ～ 11 : 20 総会

11 : 30 ～ 12 : 30 25 周年記念式典

1. 市長挨拶
2. 理事長挨拶
3. 大会長挨拶
4. 北九州市少年少女合唱団
5. テノール歌手

12 : 40 ～ 13 : 20 教育講演

長岡京アゼリア歯科 理事長

ホワイットスマイル歯科・矯正歯科 理事長 戸谷 孝洋

演題：「外傷歯及び口腔機能管理における医療保険算定のポイント」

13 : 25 ～ 14 : 05 基調講演 I

九州歯科大学歯科放射線学分野 教授 森本 泰宏

演題：「歯科関連疾患に対する画像研究」

14 : 10 ～ 15 : 40 シンポジウム

テーマ「外傷歯の診断と治療」

シンポジスト

日本歯科大学新潟生命歯学部病理学講座 教授 岡田 康男

福岡医療短期大学歯科衛生学科 教授 馬場 篤子

宮崎大学医学部感覚運動医学講座顎顔面口腔外科学分野 講師 金氏 毅

15 : 45 ～ 16 : 25 特別講演 I

沖縄県立八重山病院歯科口腔外科 狩野 岳史

演題：「沖縄県立病院群歯科口腔外科における口腔顎顔面外傷の取り組み」

17 : 30 ～ 19 : 30 祝賀会、懇親会（JR 九州ステーションホテル小倉）

2025年7月20日 <2日目>

9:00～9:40 一般口演

- ①九州歯科大学歯科放射線学分野で歯学生に実施されている研究室配属プログラムについて

○森本 泰宏、小田 昌史、松本(武田)忍、西村 瞬、仁科 晋

演者所属：九州歯科大学歯科放射線学分野

- ②乳歯の癒合に伴う導管形態の変異に関する検討

○小田 昌史、西村 瞬、松本(武田)忍、仁科 晋、森本 泰宏

演者所属：九州歯科大学歯科放射線学分野

- ③咬筋の Cine-MR 画像と咬合力との相関性についての検討

○仁科 晋、小田 昌史、松本(武田)忍、西村 瞬、銘苅 泰明

森本 泰宏

演者所属：九州歯科大学歯科放射線学分野

- ④転落により顔面多発骨折を来した小児の1例

○銘苅 泰明、比嘉 努、仲間 錠嗣、狩野 岳史、澤田 茂樹、立津 政晴

小川 千晴、新垣 敬一

演者所属：沖縄県立中部病院

- ⑤舌下腺ヘルニアの画像所見

○西村 瞬、小田 昌史、松本(武田)忍、仁科 晋、森本 泰宏

演者所属：九州歯科大学歯科放射線学分野

9:45～10:25 基調講演Ⅱ

筑波大学医学医療系顎口腔外科学 教授 柳川 徹

演題：「歯科の未来は明るいのでは・・・？ 医学目線で考えた歯科の魅力」

10:30～11:10 特別講演Ⅱ

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 医療部長兼歯科口腔外科

部長 比嘉 努

演題：「CAD/CAM 技術を用いた顎矯正手術の実際」

11:15～11:55 特別講演Ⅲ

神戸大学大学院医学研究科系講座口腔外科学分野 名誉教授 古森 孝英

演題：「日常診療と関係する顎口腔領域の加齢変化」

12:00～12:05 閉会の辞

一般社団法人 日本外傷歯学会学術大会併催

日本外傷歯学会認定医更新セミナー

12:05～12:10 認定医更新セミナー開会式

12:15～12:55 認定医更新セミナー「外傷が起因する顎関節疾患」篠塚 啓二

13:00～13:40 認定医更新セミナー「医療における歯科医師のプレゼンス」島田 拓矢

13:45～13:50 閉会式

教育講演

7月19日 12:40～13:20

座長 有住 隆史

ありずみ歯科医院 院長

外傷歯及び口腔機能管理における 医療保険算定のポイント

戸 谷 孝 洋

長岡京アゼリア歯科 理事長

ホワイトスマイル歯科・矯正歯科 理事長



令和6年度の医療保険改定では、口腔機能管理に大きくシフトした医療保険点数改定が行われた。特に口腔疾患の重症化予防・口腔機能低下への対応の充実・医歯薬連携の推進・ライフステージに応じた口腔機能管理の推進・質の高い在宅医療の推進などがメインテーマとなった。

我々には、地域社会を支えていく役割として、小児の口腔機能発達の促進と高齢者の口腔機能低下予防について様々な方向から研究を重ね、また臨床においても治療とリハビリテーションの両面で積極的に実践していくことが求められている。

本講演では、1) 外傷歯の治療に関する保険点数と算定方法 2) 臨床における口腔機能管理の医療保険における流れの実際 3) 口腔機能管理に関連した保険点数の算定方法についてまとめたので、解説したい。

【略歴】

平成4年 長崎大学歯学部 卒業
平成11年 大阪府 医療法人清真会 三田診療所管理医
平成12年 戸谷歯科クリニック開設
平成15年 医療法人孝陽会 開設 理事長就任
平成23年 大阪市立大学医学部 細菌学教室所属
平成24年 九州歯科大学 口腔再建リハビリテーション学分野所属
平成27年 京都府長岡京市に長岡京アゼリア歯科設立
令和2年 大阪市中央区にホワイトスマイル歯科設立

【資格】

医学博士（大阪市立大学医学部細菌学）
歯学博士（九州歯科大学口腔インプラント科）
日本外傷歯学会 認定・指導医
日本口腔インプラント学会 専門医

【役職】

日本外傷歯学会 医療問題担当理事
アジア国際外傷歯学会 理事
西日本臨床小児口腔外科学会 理事
大阪府大淀歯科医師会 常務理事

基 調 講 演 I

7月19日 13:25～14:05

座長 楠崎 晴規

九州労災病院

門司メディカルセンター・歯科

歯科関連疾患に対する画像研究

森 本 泰 宏

九州歯科大学歯科放射線学分野 教授



「レントゲンなくして医療なし」と言われるように、現在の医療には画像診断がなくてはなりません。各種疾患の診断を行うために、様々な画像を用いて体内の状態を非侵襲的に評価し、診断に結び付けています。その体内を描画する各種画像診断装置は急速に進歩しています。デジタルエックス線画像、CT や MRI は勿論、超音波検査や PET-CT 画像等も日常臨床になくはならないものになっています。この流れは歯科疾患に対しても同様です。歯科疾患に口内法やパノラマエックス線画像だけでなく、CT、MRI、PET-CT 画像も応用されています。様々な画像診断装置を用いて各種歯科疾患を総合的に捉えることで質的診断の向上や機能的診断の実践に繋がっているのです。また、診断能を向上させるための研究も日進月歩です。私の所属する研究室でもこれ迄歯科疾患の診断能を向上させることを目標に研究に取り組んでいます。今回の講演では、その成果の一端を紹介させて貰います。具体的には MR を用いた嚥下機能の評価法、三叉神経痛の評価を行うための MR cisternography の応用、18F-FDG-PET-CT による口腔・顎・顔面領域における不特定な集積及び CT を用いた歯の萌出路の描出などです。今回の発表を通して私達が行っている画像研究を少しでもご理解頂ければ嬉しく思います。

【略歴】

1991 年 九州歯科大学 卒業
1995 年 九州歯科大学大学院 修了
九州歯科大学 助手
1998 年 九州歯科大学 講師
2003 年 九州歯科大学 助教授
2006 年 九州歯科大学 教授
現在に至る

シンポジウム

7月19日 14:10~15:40

座長 小田 昌史

九州歯科大学歯科放射線学分野

口腔顎顔面外傷に伴う疾患の臨床研究成果を日常臨床に フィードバックする－病理学の立場から－

岡 田 康 男

日本歯科大学 新潟生命歯学部 病理学講座 教授



歯根破折は、歯周病、齲蝕に次いで歯の喪失原因の第3位で増加傾向にある。近年では破折歯根を口腔外で接着し、再植する治療も行われている。また、外傷による腫瘍、腫瘍類似や嚢胞疾患として外傷性線維腫（線維上皮性ポリープ）、膿原性肉芽腫様病態を示す血管異常や粘液嚢胞などがある。しかし、これらの外傷による疾患についての臨床病理組織学的な研究報告は少なく、臨床診断に苦慮する症例に遭遇することがある。そこで、当教室で行ってきた垂直性歯根破折歯 60 例、外傷性線維腫 100 例、粘液嚢胞 100 例、膿原性肉芽腫様病態を示す血管異常 20 例の病理組織学的・データサイエンス的臨床研究から得られた臨床診断上の特徴に加え、唾液腺腫瘍、悪性腫瘍との鑑別点について、病理組織所見との距離を縮め、日常診療に役立てられる内容で講演する。併せて当教室で行っている脱臼歯の再植後の歯髄再生に関する実験的研究成果についても紹介する。

【略歴】

- 1990 年 日本歯科大学 新潟歯学部（現 新潟生命歯学部）卒業
- 1994 年 日本歯科大学 大学院 新潟歯学研究科修了
（顎口腔全身関連治療学）
- 1995 年 日本歯科大学 新潟歯学部 口腔外科学第2講座 助手（助教）
- 2002 年 日本歯科大学 新潟歯学部 口腔外科学第2講座 講師
- 2005 年 日本歯科大学 新潟歯学部 口腔外科学第2講座
助教授（准教授）
- 2006 年 日本歯科大学 新潟歯学部 病理学講座 助教授（准教授）
- 2010 年 日本歯科大学 新潟生命歯学部 病理学講座 教授

【資格】

- ・日本外傷歯学会 認定医／指導医
- ・日本病理学会 口腔病理 専門医／専門医研修指導医
- ・口腔外科 専門医／指導医
- ・死体解剖資格（病理解剖）（厚労省）
- ・インфекションコントロールドクター（ICD）
など

乳歯の外傷歯への対応～歯科衛生士の役割～

馬 場 篤 子

福岡医療短期大学歯科衛生学科 教授

福岡医療短期大学歯科衛生士研修支援センター
センター長



乳歯の外傷は幼児期に頻繁に発生し、その診断と治療は歯科医療チームにとって重要な課題です。本シンポジウムでは、特に歯科衛生士の役割に焦点を当て、外傷歯患者さんの電話対応、教育と予防指導、診断と治療のサポート、治療後のフォローアップケアについて解説します。

歯科衛生士は、乳歯外傷の診断と治療において重要な役割を果たします。まず、外傷歯患者さんの電話対応を行います。電話対応では、患者の家族や保育士や養護教員などからの質問や不安に対して迅速かつ適切に対応し、必要な情報を提供します。例えば、外傷直後の応急処置の方法や、来院までの注意点などを説明します。

診断においては、歯科衛生士が問診、視診や触診などの臨床的診査を行い、外傷の程度を評価します。また、エックス線診査の補助を行い、正確な診断をサポートします。治療においては、歯科医師と協力し、保存的治療や外科的介入の準備・補助を行います。

治療後のフォローアップケアも歯科衛生士の重要な役割です。患者の経過観察を行い、治療後の口腔衛生指導を継続します。特に、外傷後の歯の健康状態を維持するための指導や、再発防止のためのアドバイスを提供します。また、治療後の経過観察やフォローアップの予約調整も行い、患者が安心して治療を受けられるようサポートします。

歯科衛生士の専門知識とスキルは、外傷歯治療においても欠かせない存在です。本講演を通じて、皆様が歯科衛生士の役割を再認識し、実践に役立てて頂けたら幸いです。

【略歴】

- 1990年 福岡歯科大学歯学部歯学科 卒業
- 1994年 福岡歯科大学大学院歯学研究科歯学専攻博士課程
(小児歯科学) 修了
- 福岡歯科大学附属病院 医員
- 福岡歯科大学 助手
- 2005年 福岡歯科大学 講師
- 2016年 福岡歯科大学医科歯科総合病院 病院准教授
- 2022年 福岡歯科大学成長発達歯学講座育成小児歯科学分野 准教授
- 2023年 福岡医療短期大学歯科衛生学科 教授
- 福岡医療短期大学歯科衛生士研修支援センター センター長

口腔顎顔面外傷の治療－術後の機能回復を目指して－

金 氏 毅

宮崎大学医学部感覚運動医学講座
顎顔面口腔外科学分野 講師

外傷患者のうち、口腔顎顔面外傷を伴う症例は15%程度と言われており、受傷により、咬合、口腔機能（咀嚼、構音、呼吸）、審美性に重大な影響をおよぼすといわれています。診断としては、単純X線撮影がスクリーニングに有効ではありますが、現在ではCTによる評価も必須であると考えます。それにより多様な骨折様式を把握し、適切な位置への整復を立案します。治療法としては、観血的処置が第一となりますが、治療にあたっては、咬合、顎口腔機能、顔面形態、顎関節に対する再建的な知識が必要となります。整復や固定が適切になされない場合、歯の喪失、咬合不全、治癒不全や変形治癒、術後感染、顎関節症などの合併症を生じる可能性もあります。また、患者は予期せぬ受傷により、形態、機能障害を抱え、社会生活からの離脱を余儀なくされていますので、治療のゴールは、合併症のない治癒と早期の形態、機能の回復および社会復帰であると考えます。当院は県内で数少ない歯科口腔外科を併設した3次医療機関であり、軽度の歯の破折・脱臼から重度の顎骨骨折（顔面多発骨折）、多発外傷、複合外傷まで多岐にわたる外傷症例を経験しております。外傷に対しては、初期対応（気道確保、止血、全身評価）とともに他科（救急科、整形外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科等）との連携が必要となり、場合によっては同時手術も行っております。また、長期的な機能回復として、骨移植やインプラントの適応も積極的に行っております。本講演では、当科で行っている口腔顎顔面外傷に対する治療アプローチと術後機能回復について、症例や機能評価の臨床的検討を交えてご紹介させていただきます。

【略歴】

2006年 九州歯科大学歯学部卒業
2011年 九州歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了（歯学博士）
2011年 九州歯科大学口腔顎顔面外科学講座形態機能再建学分野 助教
2014年 佐賀大学医学部麻酔科蘇生科 医員
2015年 九州歯科大学歯学部生体機能学講座口腔内科学分野 助教
2015年 宮崎大学医学部感覚運動医学講座顎顔面口腔外科学分野 助教
2020年 宮崎大学医学部感覚運動医学講座顎顔面口腔外科学分野 講師
現在に至る。

特別講演 I

7月19日 15:45～16:25

座長 曾我 富美雄

曾我歯科医院 院長

沖縄県立病院群歯科口腔外科における 口腔顎顔面外傷治療の取り組み

狩 野 岳 史

沖縄県立八重山病院歯科口腔外科



全国でも有数の島嶼県である沖縄の離島では、絶対的な医師不足、現地での専門医療の提供困難、患者および家族の移動による心理・経済的負担などが医療の問題点として挙げられます。一方、口腔顎顔面外傷は、審美的・機能的な障害を伴うだけでなく、診断・治療においては形成外科、耳鼻科、眼科といった複数の診療科と重なることも特徴です。また、医療の介入時期により後遺症も様々で、早期に確実な診断に基づいた治療を行うことが重要になります。しかしながら、沖縄県の離島では、診断・治療の遅れ、専門医療の提供という点が劣っていることも現状と思われます。その中でも、口腔顎顔面外傷は、離島・僻地医療の問題点が“浮き彫り”になる代表的な疾患の一つと考えられます。われわれは、これらの背景を元に“沖縄県立病院群歯科口腔外科”としての活動を2013年より開始してきました。さらに、疾患が他科領域を跨ぐ場合には、医科歯科連携による頭蓋顎顔面センターによる連携医療も活用しています。今回、沖縄県立病院群歯科口腔外科で展開しているモバイル医療および離島（八重山・宮古病院）における口腔顎顔面外傷の現状等を報告する予定です。

【略歴】

1995 年 日本歯科大学卒業
1995 年 琉球大学医学部歯科口腔外科
1996 年 琉球大学大学院医学研究科入学
2000 年 琉球大学大学院医学研究科修了
2004 年 沖縄県立中部病院歯科口腔外科
2006 年 東邦病院歯科口腔外科
2008 年 琉球大学医学部歯科口腔外科
2010 年 与勝病院歯科口腔外科
2013 年 沖縄県北部保健所健康推進班
2015 年 沖縄県立北部病院歯科口腔外科
2018 年 沖縄県立宮古病院歯科口腔外科
2024 年 沖縄県立八重山病院歯科口腔外科
現在に至る

一 般 口 演

7月20日 9:00～9:40

座長 西村 瞬

九州歯科大学歯科放射線学分野

九州歯科大学歯科放射線学分野で歯学生に実施されている研究室配属プログラムについて

○森本 泰宏・小田 昌史・松本(武田)忍・西村 瞬・仁科 晋
九州歯科大学歯科放射線学分野

九州歯科大学の2年生と5年生のカリキュラムとして行っている研究室配属の内容とその際に作成された成果物としてホームページを紹介する。九州歯科大学ではリサーチマインドを持った歯科医師の養成を目的に2年生で研究室配属という演習（実習）が行われている。このカリキュラムは、2006年度から5年次生を対象に前期30コマ（1回90分）を活用して開始された。2015年度に対象学年と時期が変更され、2年生で通年施行されることになった。歯科放射線学分野ではこのカリキュラムに対して歯科放射線学の自学自習に役立つコンテンツを含んだティーチングファイルを作成し、日本や海外に向けて発信を行っている。具体的な手順は①Web上にアップロードする題材及びコンテンツの決定、②ホームページ作成とそのアップロードである。その後、研究室配属の成果物に対する発表会が催されるため準備を行う。コンテンツの作成及びweb上のアップロードの為に使用するソフトウェアはAdobe Photoshop CS (Adobe, CA, USA.)、Adobe Dreamweaver (Adobe, CA, USA.)、Microsoft PowerPoint (Microsoft Corporation WA, USA.)である。歯科放射線学のコンテンツを決定する為の参考資料は歯科放射線学の教科書や参考書などとしている。主に本教室が執筆しているものを利用して貰っている。今回の発表ではこれまでの九州歯科大学歯科放射線学分野における研究室配属プログラムの足跡を振り返り紹介したいと考えている。

乳歯の癒合に伴う導管形態の変異に関する検討

○小田 昌史、西村 瞬、松本(武田)忍、仁科 晋、森本 泰宏
九州歯科大学歯科放射線学分野

癒合歯は、乳歯における比較的高頻度な歯の形態異常であり、後継永久歯の先天欠如や萌出異常と関連することが知られている。癒合歯の発生要因としては、歯胚の接触や圧迫などの機械的要因外傷による歯胚周囲環境の変化が挙げられる。特に、乳歯列形成期に加わる軽微な外傷が、隣接歯胚間の境界の破綻を引き起こし、癒合歯の形成を誘発するという仮説は興味深い。

本研究では、癒合乳歯の後継永久歯に注目し、萌出経路に関与する導管の形態的特徴を画像学的に解析した。対象は九州歯科大学附属病院において multi-detector CT または CBCT を施行され、癒合乳歯が確認された小児症例とし、後方視的に評価を行った。

解析の結果、癒合乳歯の後継となる2本の永久歯のうち、片方が欠如している場合は、もう片方の永久歯の導管および歯は正常に形成されていた。一方、後継歯が2歯とも存在する例では、導管が歯槽頂付近で癒合している様子が観察された。また、遠心側の後継歯で近心への傾斜が優位に多くみられ、導管の走行と一致していた。

本研究の結果、癒合乳歯に由来する後継永久歯の導管には癒合や形態異常が高頻度でみられ、これが後継歯の発育や萌出に影響している可能性があることが示唆された。

咬筋の Cine-MR 画像と咬合力との相関性についての検討

○仁科 晋、小田 昌史、松本(武田)忍、西村 瞬、銘苅 泰明、森本 泰宏
九州歯科大学歯科放射線学分野

T2 強調シーケンスに基づいた cine-MRI を用いると、筋の MR 信号変化が確認される。今回、咬合時における咬筋でも筋の収縮とともに MR 信号変化が起こるのではないかと考えた。また、咬合時の筋の MR 信号変化と咬合力との間に相関があるとの仮説をたて、検証することとした。

研究は健常者ボランティアを対象におこなった。Cine-MRI の撮像範囲は咬筋および後頭下筋群（対照群）を含む軸位画像が得られるように設定した。また、撮像時間は 12 秒とした。下顎安静位にて cine-MRI 撮像を開始し、3 秒後から最大咬合力での咬み締めを行うよう指示した。咬筋と対照群に対して、MR 信号値の計測及びテクスチャー解析をおこなった。また、被験者は座位にてデンタルプレスケール II（GC、東京、日本）を用いて咬合力の測定を行った。これらのデータを分析し、筋の MR 信号変化及び MR 信号変化と咬合力との相関性について検証した。

結果、安静時と咬合時における筋の MR 信号値に有意差は認められなかった。しかし、テクスチャー解析において安静時と咬合時との間に複数の種のパラメータで有意差が示された。また、咬合力との間に有意な相関性を認めるテクスチャーパラメータも複数認められた。

今回の結果より、MRI を利用して筋の機能や咬合力を評価することができる可能性が示唆された。

転落により顔面多発骨折を来した小児の1例

○銘莉 泰明¹⁾、比嘉 努²⁾、仲間 錠嗣¹⁾、狩野 岳史³⁾、澤田 茂樹⁴⁾、立津 政晴⁵⁾、
小川 千晴²⁾、新垣 敬一⁴⁾

¹⁾ 沖縄県立中部病院、²⁾ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

³⁾ 沖縄県立八重山病院、⁴⁾ 沖縄県立北部病院、⁵⁾ 沖縄県立宮古病院

【緒言】

小児の顎骨骨折は成人の場合と異なり、顎骨が成長過程である。また、歯も成長過程であるため治療には十分な配慮が必要である。しかし、小児の顎骨骨折の治療法は確立していないのが現状である。今回われわれは、転落により顔面多発骨折を来した1例を経験したため報告する。

【症例】

患者は10歳、女児。2017年11月午前3時ごろ自宅3階から転落し受傷。当院救急へ搬送された。全身精査を行い、下顎粉碎骨折、上下歯槽骨骨折、両側関節突起骨折、眼窩底骨折、篩骨骨折、外傷性気胸の診断となった。救急外来で経口挿管と両側胸腔ドレーンが留置されたのちICU管理を行うこととなった。翌日、顔面多発骨折に対して口腔外科、形成外科、耳鼻科合同で手術を行なった。最初に気管切開を行い、その後観血的整復固定術を行なった。下顎骨は粉碎骨折をしていたため submental approach を行なった。そして整復後に reconstruction plate で固定を行なった。そして歯槽骨と脱臼歯を徒手的に整復し、ブラケットとワイヤーを用いて固定を行なった。術後、ゴム牽引による顎内誘導を開始した。術後45日目に経過良好のため退院となった。退院後も定期的に外来経過観察を行い保存した歯は感染することなく経過し8ヶ月後に抜釘を行なった。

【考察】

顎骨骨折の場合、動揺の強い歯は抜歯が適応となることも多いと思われるが、小児の顎骨骨折に関しては適切な口腔管理が行われる場合、歯の保存も念頭に置くことが大切であると考えられた。

舌下腺ヘルニアの画像所見

○西村 瞬、小田 昌史、松本(武田)忍、仁科 晋、森本 泰宏
九州歯科大学 歯科放射線学分野

舌下腺 (SLG) は、オトガイ舌筋、オトガイ舌骨筋、顎舌骨筋に囲まれた舌下間隙に位置している。顎舌骨筋は舌下間隙と顎下間隙を隔てているが、顎舌骨筋による二つの間隙の分離が不十分なために、舌下腺が顎下間隙に入り込むことがある。これを舌下腺ヘルニア (SLH) と呼ぶ。CT や MRI において、口腔底の軟部組織腫瘍として検出される SLH は、初めて経験する臨床医を困惑させることが多い。

本研究は、九州歯科大学附属病院歯科放射線科を受診した患者から、画像保存通信システム (PACS) を用いて SLH 患者を抽出し、MDCT 画像および MR 画像上で後方視的に評価を行った。

解析の結果、207 名の患者において 289 例の SLH を同定した。SLH の主な画像所見として、CT または MRI において顎舌骨筋の下に腫瘤状の構造物が認められた。顎舌骨筋の欠損がある被験者は、欠損がない被験者と比較して SLH の有病率が有意に高く、また顎舌骨筋欠損の大きさと SLH の大きさには相関関係が認められた。また、全症例において SLH と SLG の連続性を認めた。

SLH は CT および MRI において高確率で検出されるため、口腔底に発症する他の腫瘍性病変との鑑別には正確な画像診断を要する。SLH は SLG との連続性と類似性を有しており、他疾患との鑑別が可能であると考ええる。

基 調 講 演 Ⅱ

7月20日 9:45～10:25

座長 福島 直樹

ふくしま歯科医院 院長

歯科の未来は明るいのでは・・・？ 医学目線で考えた歯科の魅力

柳 川 徹

筑波大学医学医療系 顎口腔外科学

筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センター



2025 年世界大学ランキング（QS 社）によると医学部の世界ランキング 1 位はハーバード大学から始まって、日本の最高位がランキング 48 位の東京大学医学部、次いで 72 位 京都大学医学部・・・と、続きます。一方、歯学部ランキング 1 位はミシガン大学、日本の最高位は世界ランキング 4 位の東京医科歯科大学（現 東京科学大学）歯学部です。日本では医学より歯学の方が世界の頂点に近いようです。医師の家庭は裕福と言われていますが、年収 1000 万の家庭は医学部で 55.5% であるものの、歯学部は 68.8% と恵まれた環境に育っているのは歯学生たちのようです。近年、「社畜にされる」「仕事を辞めて FIRE（Financial independent retire early）を」など耳にしますが、歯科医師には無縁な話です。歯科医師 10 万人の 9 割弱が開業医で経営者側の立場にあるからです。一方、医師 34 万人中の約 7 割が勤務医で、ごく一部の上級職を除いて多くの医師は常に上司を気にしなければいけません。医師の世界では、直美・直産などと言われ、ライフワークバランスを重視しストレスのかかる勤務を避ける医師が増えていることが問題になっていますが、一部を除く歯科医師にとってはまるで無縁な世界です。医師と歯科医師の両方を知った人間の目で見れば、今の時代に適応しているのはどちらなのでしょう。もしかしたら歯科の未来は明るいのでは？ 本講演では、医師の目線で歯科の特徴を考えて歯科の未来を考えたいと思います。

【略歴】

1987 年 3 月 東京医科歯科大学歯学部卒業
1987 年 7 月 東京医科歯科大学歯学部附属病院 特別臨床研修医
1989 年 4 月 筑波大学医学専門学群入学
1995 年 3 月 筑波大学医学専門学群卒業
1995 年 4 月 筑波大学大学院医学研究科形態系入学
1999 年 3 月 筑波大学大学院医学研究科形態系修了 博士（医学）
1999 年 4 月 千葉県がんセンター頭頸科研修生
1999 年 8 月 筑波大学臨床医学系 講師
2010 年 10 月 筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授
2013 年 4 月 筑波大学医学医療系 顎口腔外科学 准教授
2015 年 4 月 筑波大学附属病院 病院教授
2018 年 8 月 筑波大学医学医療系 顎口腔外科学 教授
筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

特別講演Ⅱ

7月20日 10:30～11:10

座長 狩野 岳史

沖縄県立八重山病院 歯科口腔外科

CAD/CAM 技術を用いた顎矯正手術の実際

比 嘉 努

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
医療部長 兼 歯科口腔外科 部長



顎矯正手術における 3D シミュレーションの導入は、従来の方法（Cephalometric Prediction, Model Surgery）と比較して短時間で効率的に予測実現性の高い治療計画の立案が可能となり、手術時のスプリントも CAD/CAM での作製により精度の高いものとなった。画像上での移動量の確認や骨片干渉部分の確認が可能で、多分割 Le Fort I 型骨切り術（LF I）においては、矯正歯科医と連携し従来法と比較して CAD/CAM で作製した複数のスプリントを用いることで各ステップでの手技を確実なものとして行うことができ有用であると考えられる。

CAD ソフトウェアを活用し、各手術プロセスの 3D シミュレーションを行い得られた STL データを 3D プリンターによりスプリントを作製する。各プロセスにおいて、スプリントを使用したことで口蓋粘膜の最小限の剥離、上顎前歯部の移動、上顎臼歯部歯槽骨切り後の移動など正確に術前シミュレーションの再現が可能である。デジタルツールを活用した方法は、従来法に比べて歯根位置の状態の把握や骨片移動後の状態のシミュレーションなどより正確な手術計画を立てることが可能となり、特に多分割 LF I などの複雑な手術においてはテクニカルエラーが少なく手術時の精度が高くなると考えられる。我々は、2015 年頃からダブルスプリント法からシングルスプリント法に移行し、一般的な LF I からその変法として S 字骨切り術へと変化し、術式もより複雑な多分割 LF I を行ってきた。

今回、CAD/CAM 技術を用いた顎矯正手術と沖縄県立病院群における顎矯正手術の医療体制の現状を併せて紹介する。

【略歴】

1990 年 3 月 琉球大学医学部保健学科卒業
1999 年 3 月 鹿児島大学歯学部卒業
4 月 琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科入局
2001 年 4 月 北大東村立歯科診療所勤務
2001 年 10 月 琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科 医員
2002 年 4 月 広島市立広島市民病院歯科口腔外科 医員
2003 年 8 月 中部徳洲会病院歯科口腔外科 医員
2004 年 4 月 琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科 助教
2009 年 5 月 沖縄県福祉保健部南部福祉保健所中央保健所勤務
2011 年 4 月 浦添総合病院歯科口腔外科 医長
2014 年 4 月 南部医療センター・こども医療センター
歯科口腔外科 医長
2015 年 4 月 同センター 歯科口腔外科 部長
2025 年 4 月 同センター 医療部長 兼 歯科口腔外科 部長
現在に至る

特別講演Ⅲ

7月20日 11:15～11:55

座長 今倉 由紀子

いのうえゆきこ小児歯科クリニック 院長

日常診療と関係する顎口腔領域の加齢変化

古 森 孝 英

神戸大学大学院医学研究科外科系講座口腔外科学分野
名誉教授



う蝕の減少と人口の高齢化により歯科医療は大きく変化していますが、日本の高齢化率は今後ますます高まると予測されており、さらなる対応が必要となります。

このような状況の中で、加齢により歯や口腔にどのような変化が現れるのか、また、加齢により生じる口腔内疾患にはどのようなものがあり、その予防や治療はどのようにすればよいのかを知ることは重要と思われます。

そこで今回の講演では、歯や歯周組織だけではなく、舌や唾液腺、および顎骨や顎関節の加齢変化について述べた上で、加齢により発生しやすい口腔疾患についても概説する予定です。具体的には、口腔カンジダ症、口腔乾燥症（ドライマウス）、帯状疱疹、悪性貧血（Hunter 舌炎）、白板症、口腔癌、色素沈着、義歯性線維腫、口角炎、扁平苔癬、薬物性歯肉肥大、骨隆起、習慣性顎関節脱臼、骨吸収抑制薬関連顎骨壊死などの疾患で、本講演が少しでも今後の診療の一助になれば幸いです。

【略歴】

1979 年 東京医科歯科大学歯学部卒業
1986 年 東京医科歯科大学大学院修了
1987 年 東京大学医学部口腔外科学講座助手
1996 年 東京大学保健管理センター講師
（医学部附属病院歯科口腔外科講師兼任）
1998 年 神戸大学医学部口腔外科学講座教授
2001 年 神戸大学大学院医学系研究科器官治療医学講座
顎口腔機能学分野教授（名称変更）
2008 年 神戸大学大学院医学研究科外科系講座口腔外科学分野
教授（名称変更）
2019 年 神戸大学名誉教授
現在に至る

一般社団法人 日本外傷歯学会学術大会併催 日本外傷歯学会認定医更新セミナー

2025 年 7 月 20 日

12 : 05 ～ 12 : 10 認定医更新セミナー開会式

認定医担当理事 曾我 富美雄

12 : 15 ～ 12 : 55 認定医更新セミナー

日本大学歯学部口腔外科学第 I 講座 篠塚 啓二

「外傷が起因する顎関節疾患」

13 : 00 ～ 13 : 40 認定医更新セミナー

京都市立病院周術期統括部麻酔科 島田 拓矢

「医療における歯科医師のプレゼンス」